

E & Eレポート

No. 94

発行日 2009年7月29日
 発行元 E & Eプランニング
 責任者 宮本康弘
 川崎市中原区市ノ坪223-4-515
 電話/FAX 044-434-7291
 メール miyamoto@d03.itscom.net

省エネ、環境機器システム

東芝など3社がスマートメーター事業化へ。

東芝、東光電気がスマートメーターの設計・製造を手掛け、東電エリア内の各家庭に導入していく。4年程度かけて機器生産、導入のための試験などを行い、13年度をめどに本格的な更新を始める方針。最終的には東電エリア内の全家庭に導入する。欧州や東南アジアなどへの海外展開も視野に入れる。スマートメーターの導入により、家庭のエネルギー使用の最適・多様化につなげる狙い。
 (コメント:売電、買電の計測、蓄電池の制御や給湯など家庭やビル

のエネルギー管理のキーになるだろう。)「電気新聞」

三菱重工、太陽光・太陽熱併用の家庭向けコージェネ。

屋根に太陽電池パネルと太陽光の集熱器を設置し、集熱器を通じて太陽熱を回収するほか、太陽電池パネルと屋根とのすき間を流れる空気からも太陽電池が発する熱を回収。この熱を暖房や給湯に活用する。太陽光発電の出力は2キロワット、3キロワット、4キロワットの3種類。価格は未定だが350万~500万円程度。国や自治体などの太陽光発電の補助金を活用すれば負担は1~3割程度減らせ、家庭の消費エネルギーの65%を太陽エネルギーで賄える。
 「日経産業新聞」

(コメント:太陽光よりエネルギー効率の良い太陽熱の活用にもっと助成金を出すべき。)

グリーン・グリッド日本支部がデータセンターの外気冷房試算ソフトを無料公開。

データセンターの消費電力の4割は空調が占める。日本全国42地点について、過去10年間の1時間ごとの気象データをもとに、外気が冷房に利用できる時間帯や日数などを計算。データセンターの所在地の郵便番号と機器の消費電力量などを入力すると、外気の利用でどれだけ電力消費を削減できるか試算可能。すでにマップを公開している米国などの例から試算すると、データセンター1カ所当たり、年間数百万円の電気代節約が見込める。札幌市で外気利用に加え、冬の氷雪を保存して夏場に使う氷雪冷熱の手法を使えば、東京と比べて電力消費、CO2排出量ともに約9割削減できるとの試算もある。
 「ビジネスアイ」

(コメント:このような形式の省エネツールは使い勝手が良い。)

シーメンスなど12社が太陽発電で合意。

サハラ砂漠の太陽熱エネルギーを利用して発電し、欧州に送電する「デザートテック」プロジェクトの事業計画策定で合意したと発表。今後3年以内に事業計画を策定。総事業費は推定5550億ドル(約51兆6000億円)。2050年までに、欧州の電力の15%と北アフリカの需要の大部分をまかなう構想。プロジェクトはドイツ大手企業が中心。送電は直流送電技術を計画。
 「電気新聞」

(コメント:壮大なプロジェクト。日本も中国大陸でこれくらいの企画をすればCO2の大幅削減が可能。)

三洋電機がオゾン除菌で雨水を安全に利用する装置を開発。

開発した装置は、雨水を貯水タンクに貯め、独自のオゾン処理技術を使った浄化ユニットで浄化・除菌。浄化した雨水は送水ポンプで、屋根や空調の室外ユニットなどに散水・噴霧する仕組み。建物の冷却や空調機の運転効率改善に雨水が使いやすくなる。植栽や屋上緑化への水やりや駐車場などへの打ち水、清掃に利用すれば節水にもなる。雨水が足りない時は、補給水を使うこともできる。
 「日経BP」

(コメント:水の重要性がますます増す。雨水の浄化、活用は地下水より良さそう。)

富士ゼロックスが消費電力を従来機比75%低減のオフィス向け複合機を発売。

オフィス機器の標準的な稼働モデルである「概念的1週間」(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)を2.44kWhに抑えた。これは同社従来機に比べ約75%の低減。

今回の省エネは、画像読み取り部分の光源をLED(発光ダイオード)に転換や、省エネ性能に優れた独自のトナーを採用することなどで実現。さらに、コントローラーの改良により、スリープモード時の消費電力を従来機の約6分の1に低減した。「ケンブラッツ」

(コメント:機器の省エネと使う側の省エネ努力の両面で効果が発揮できる)

富士経済が太陽電池市場、2017年度に3.6倍と予測。

太陽電池市場は国や自治体などの住宅・学校向け補助金が相次ぎ、2017年度に08年度比3.6倍の6448億円に拡大。燃料電池の市場は家庭用がけん引する形で、17年度には同39倍の2078億円に成長。2次電池・電力貯蔵システムは17年度に計4296億円と1.2倍に拡大と予測。このうちリチウムイオン電池は電気自動車などの普及で15年以降に急拡大する見通し。風力発電・バイオマス(生物資源)は1.9倍の計2064億円に。照明機器は2.4倍の317億円と予測。発光ダイオード(LED)照明が普及し、インバーター蛍光灯照明とほぼ同じ市場規模と予測。
 「日経産業新聞」

(コメント:太陽電池の普及は補助金政策の舵取りに左右される。)

省エネ、環境政策動向

米大統領が家電に新省エネ基準を策定する方針。

エネルギー問題に関する演説で、冷蔵庫など家電製品全般で新たな省エネ基準の策定を進める方針を明らかにした。この一環として、蛍光灯などを対象に電力使用量を15~25%減らす新基準を2012年から導入する。資源を節約すると同時に温暖化ガスの排出抑制にもつなげる。
 「日本経済新聞」

(コメント:省エネと併せて資源の有効活用も重要な視点。)

政府は、温暖化ガス排出枠の購入費用を09年度から損金扱いに。

経済産業省と財務省が、このほど合意した。損金となるのは、企業が自主的な排出削減目標の達成のために排出枠を使うケース。排出枠を取得すれば、企業はその分を自社で減らしたとみなされる。一方、排出枠を削減目標の達成に使わず、第三者に転売する場合は課税対象となる。今年度から適用し、実質的な法人税軽減につながる環境を整え、温暖化ガス削減の取り組みを後押しするとともに、国内排出量取引市場の活性化を狙う。
「日本経済新聞」

(コメント:排出権取引普及のためには、制度整備が不可欠。)

経済産業省が再生可能エネルギーでCO2ゼロ・エミッションビルのモデル事業を開始。

再生可能エネルギーの利用により二酸化炭素(CO2)排出量を相殺できる建物、「ゼロエミッション・ビル」のモデル事業を開始する。まず、再生可能エネルギー導入と省エネ対策によってCO2排出量を3割削減できる案件を公募。革新的空調技術や自然光を取り入れた照明技術、制御システムの信頼性や省エネ効果などを実証する。09年度補正予算で40億円。モデル事業では総事業費の3分の2までを補助する方針。
「電気新聞」

(コメント:今まで

の行政は個々に推進されてきた。CO削減を目標にすることで一体化できる。)

東大がCO2から細菌の力でメタンガス生成実験に成功。

CO2から天然ガスの主成分のメタンを作る細菌が各地の油田で見つかることに着目。細菌の利用とCO2の地中貯留の技術を組み合わせると、CO2削減と天然ガス生産の一石二鳥。メタン生成に最も条件が適した培養液中での生成量に比べ、約3%と少ないながらもメタンの生成が確認された細菌が1種あった。計算上は、テスト油田での試算では約620万トンの貯留CO2から、8年ほどで、日本国内の天然ガス生産量の1年分に相当するメタンを作ることが可能。課題は細菌がメタンを作るにはCO2のほかに水素が必要で、地下深くまで大量に送り込む方法。
「ビジネスアイ」

(コメント:CO2はやっかい物だが、自然の力で有用物質に変換できれば最高。)

太陽光の余剰電力買い取り、ダブル発電は39円/kW時の見込み。

年内の開始を予定する太陽光の余剰電力買い取り制度について、初年度の1キロワット時あたりの買い取り価格を、家庭用燃料電池などを併設するダブル発電で39円、非住宅用で24円とすることを決めた。電気料金原価に織り込む電気価値は買い取り費用から控除する。電気価値は全電源平均の可変費を充て、約6円。住宅用では買い取り価格が48円で、残りの40円強を需要家が公平に負担する。

米投資会社が世界の油・ガス田の発見が1992年以降、最大の減少の見通し。

今年確認された炭化水素の確認埋蔵量と推定埋蔵量は石油換算で計約30億バレル。このペースで行けば昨年の推計である石油換算250億バレルの25%にとどまる見込み。前年比の落ち込みとしては92年以降で最大になる。と指摘。
「ビジネスアイ」
(コメント:大型油田の枯渇傾向と合わせると先行き、大変な事態になる。)

展示会、講演会

N-EXPO/KANSAI 09(ネクスポ 関西 2009) NEW環境展大阪を名称変更

http://www.nippo.co.jp/n-expo009/o_ne09a.htm

「守ろう地球創ろう共生社会」をテーマに環境ビジネス拡大を支援すると共に環境映画や落語、写真展なども企画。

開催期間 : 2009年9月3(木)～9月5(土)
場所 : インテックス大阪
料金 : ￥1,000 身体障がい者+付添い1名 無料(要証明書)
主催者 : 日報イベント(株)
連絡先 : 日報イベント(株) Tel. 06-6265-9106

フードシステムソリューション2009 <http://www.f-sys.info/>

学校給食・病院・福祉食・フードサービスの調理機器・技術・資材の総合展。

開催期間 : 2009年9月24日(木)～26日(土)
場所 : 東京ビッグサイト
料金 : ￥1,000
主催者 : フードシステムソリューション実行委員会
連絡先 : フードシステムソリューション実行委員会 Tel :03-3503-7319 Fax :03-3503-7620

後記 最後の晚餐で食べるとしたら、何を？誰と？食べたくないのは？ 出典:ヨリモ

食事は人生の楽しみの多くの部分を占めます。人生80年として、1年365日×3食×80年、10万回近く食事をする計算。これが最後だとしたら.....。(総票数5451、男性:3185、女性:2266)

「最後の晚餐」で食べるとしたら？	食べたい理由は？	誰と食べたいですか？	最後の晚餐で「これだけは食べたくないものは？
 寿司 1308票  ご飯とみそ汁 888票  ステーキ 321票	 好物だから 2811票  家庭の味だから 652票  普段食べ慣れているから 557票	 家族で 4006票  ひとりで 1028票  恋人と 147票	 東南アジア料理 618票  納豆 386票  ご飯とみそ汁 230票

(コメント:ご飯とみそ汁は分かれますね。一人で食べるのも寂しいですね。年齢層、男女で大きく違いそう。)